

令和6年度きみの地域づくり学校座学編第1回実施報告

【日時】2024年5月11日（土）、12日（日）

【場所】美里の湯 かじか荘

【参加者】受講生31人（社会人12人、大学生18人、高校生1人）、

スタッフ11人、運営協議会会員5人、その他（町議会議員等）6人

計53人

【内容】

≪開講式≫

- ・紀美野町長 小川 裕康 挨拶
- ・きみの地域づくり学校運営協議会長
りら創造芸術高等学校長 山上 範子 挨拶
- ・和歌山県知事代理 和歌山県海草振興局長 萩原 亨 氏 御祝辞



≪第1講≫

「都市農村交流と関係人口」

講師：追手門学院大学 教授

和歌山大学 名誉教授

きみの地域づくり学校長 藤田 武弘



講義内容

都市と農村の関係性の变化について、農業政策と観光政策の観点から整理いただいた総論的なお話と日本におけるグリーンツーリズム事例（直売所・農業体験農園・農家民泊・農村ワーキングホリデー）についてお話しいたしました。

受講生の感想（抜粋）

- ・都市農村交流を通じて関係人口を増やすことのできる農業体験や農家民泊の重要性を再認識しました（行政）
- ・世界の観光は楽しみだけでなく、責任のある旅行者という風になん変わっているという話が特に記憶に残った（紀美野町民）
- ・食と農が離れつつある現代で、この二つを持続的に結びつきを強めていくための様々な視点を獲得ことができ、非常に勉強になりました（大学生）



≪第2講≫

「地域づくりからコミュニティビジネスへ」

講師：株式会社秋津野 社長 木村 則夫 氏



講義内容

田辺市上秋津地区における長年にわたる住民主体の地域づくりとコミュニティビジネスの取り組みについてご講義をいただき、住民の協力や出資の輪を広げながら、様々な課題を乗り越える小さな成功体験を積み重ね、時代に併せて発展・進化してきた取り組みについてお話しいたしました。

受講生の感想（抜粋）

- ・荒れた土壌が豊かになるには時間がかかるとは正しくその通りで、（中略）実例をまのあたりにし、勇気づけられましたし、へたっては時代が過ぎていく一方であると痛感しました（協力隊）
- ・地域づくりを進めていくうえでの地元の女性の立ち位置や役割に興味を湧きました（行政）
- ・人口減少時代の中で、「地域で豊かに暮らしていく」方法をあきらめずに模索することで、これからも生き残る地域として活動している秋津野地域の今と昔について学ぶことができました（大学生）

≪第3講≫

「棚田を活用した関係人口づくり」

講師：小川地域棚田振興協議会長 北 裕子 氏



講義内容

全国的にも珍しい600年以上の歴史をもつが、耕作放棄が増えていた中田の棚田再生のこれまでの取り組みをお話しいたしました。また、登録制ボランティアの「棚田サポーターズ」や、校外学習等に関わる学生等、これまで棚田に関わってきた人たちから関係人口が徐々にできつつある様子も窺うことができました。

受講生の感想（抜粋）

- ・棚田での取り組みを地域に還元する、地域にお金をまわすことが課題という話が心に残った（行政）
- ・（当初は少人数でできる規模だったが）希望や可能性を感じて人手を求める活動をしたいと思えることはすごいことだなと感じた（大学生）
- ・地域の人たち、地域外の人達、さまざまな人との交流の場となっていて、現代全国的に減少しているコミュニティがあり、素晴らしいと思った（大学生）

【事務局（担当：藤井）より】

令和6年度の初回でしたが、受講生は皆さん、講義を熱心に聴かれるとともに、休憩時間や夕食の時間を活用して世代や立場を超えて積極的に交流されていました。また、リピート受講者もおられ、地域の方や受講生が顔なじみになっている様子を窺うこともできました。これからの1年間を通して、それぞれのヒントを得て、なりわい創りやそれぞれの活動にどのように活かされていくのか非常に楽しみです。